

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業

研究成果報告書



令和 元 年 6 月 29 日現在

機関番号：25302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K20726

研究課題名（和文）訪問看護師における巻き込まれ現象の解明と離職との関連

研究課題名（英文）Elucidation of entrapment phenomena in visiting nurses and the relationship with turnover

研究代表者

吉田 美穂（YOSHIDA, Miho）

新見公立大学・健康科学部・助教

研究者番号：50714482

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：訪問看護師の巻き込まれとバーンアウト、離職意向との関連を明らかにすることを目的とした。全国の訪問看護師を対象に質問紙調査を実施し、訪問看護師の約3割が巻き込まれ状態にあること、巻き込まれ状態にあるほど、バーンアウトや離職意向のリスクが高いことを明らかにした。今後、訪問看護師の巻き込まれ予防に向けた対策が必要であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

在宅医療において訪問看護師は重要な役割を担っている。しかしながら、訪問看護師の確保は大きな課題である。訪問看護師は生活の場に入り看護を提供するため、対象者のテリトリーやプライバシーに立ち入ることから、利用者の状況に過度に巻き込まれる危険性がある。しかし、訪問看護師の「巻き込まれ」体験に焦点を当て述べた報告は少ない。訪問看護師-利用者における過度な巻き込まれとバーンアウト・離職といったネガティブな帰結との関連について明らかにすることで、訪問看護師の就業継続へ向けた新たな研修プログラムの開発につながる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study was to examine the relationship between over-involvement and burnout and turnover intention among home-visiting nurses. Our questionnaire survey revealed that about 30% of visiting nurses were over-involved and were at risk of burnout and turnover. These findings indicate that intervention for over-involvement will be required to prevent burnout and turnover in home-visiting nurses.

研究分野：基礎看護

キーワード：訪問看護 巻き込まれ バーンアウト 離職意向

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

在宅医療・看護の推進に伴い、今後ますます訪問看護が担う役割は大きい。入院日数の短縮化、精神疾患患者の地域移行の促進など、訪問看護の対象は専門的・複雑化している現状である。訪問看護においては、「退院」はなく、対象者の状況によっては、「長期的・親密的」な患者-看護師関係になる可能性が高い。さらに、対象者・家族の状況や病態は複雑化しており、この状況に看護師がふりまわされることも推測される。

看護師は、対象者の状況に「巻き込まれる(Involvement)」ことが必要であり、巻き込まれは対象理解のために不可欠な技術である(P・Benner, 1991)。一方で、「長期的・親密的に患者と関わる看護師ほど「過度な巻き込まれ(Over-Involvement)」という状況に陥り、専門性を見失うこと(Morse, 1991)が明らかになっているように、看護師の「巻き込まれ(Involvement)」にも負の側面がある。さらに、看護師が「意図せぬ巻き込まれ」に陥ることにより、その場の感情に流されること、患者との距離が近くなりすぎどこまでが必要な援助かわからなくなる(牧野, 2005)ことが明らかになっている。

訪問看護分野について、これまで多くの調査研究が実施されてきた。これらの研究において、訪問看護師は、利用者に寄り添った看護を提供すること、家族の支えになること、他職種との連携における調整役など様々な役割を持つとされている。職業ストレスなどの内容も多くみられるが、患者-看護師関係における巻き込まれに注目した報告はみられない。さらに、訪問看護師のバーンアウトや離職に関する研究はなされているが、患者-看護師関係における巻き込まれに関する研究はみられない。しかし、これまでに述べた訪問看護の特徴からも訪問看護師は臨床看護師よりも巻きこまれやすい状況にあると推測される。そのためこれから訪問看護師を対象とした巻き込まれ研究の蓄積が求められる。

2．研究の目的

訪問看護師における巻き込まれとバーンアウト、離職意向との関連を明らかにする。

3．研究の方法

量的調査を実施した。

2018年3月～4月にかけて、郵送法により無記名自記式質問紙調査を実施した。

調査対象:全国訪問看護事業協会の正会員である訪問看護事業所5,173事業所から確率比例抽出法を用い選出した500事業所の訪問看護師1,500名とした。

調査内容:対象者の基本属性、看護師・訪問看護師経験年数、雇用形態、職位、巻き込まれ、バーンアウト、離職意向とした。巻き込まれに関する質問は、牧野ら(2009)が看護師を対象とした開発した対患者 Over-Involvement 尺度 12 項目を用いた。この尺度は、残心感、被影性、気がかりの 3 つの下位尺度からなり、各項目に対する回答は、「1.全くあてはまらない」から「5.よくあてはまる」の 5 件法で求める形式となっている。得点が高いほど、過度に巻き込まれていることを意味している。バーンアウトに関する質問は、田尾・久保(1996)が開発した日本版バーンアウト尺度 17 項目を用いて測定した。この尺度は、情緒的消耗感、脱人格化、個人達成感の低下の 3 つの下位尺度からなり、各項目に対する回答は、「1.ない」から「5.いつもある」の 5 件法で求める形式となっている。得点が高いほど、バーンアウト傾向が強いことを示している。離職意向に関する質問は、富永ら(2006)が作成した離職意向尺度 6 項目を用いて測定した。各項目に対する回答は「1.なかった」から「4.たびたびあった」の 4 件法で求める形式となっている。得点が高いほど離職意向が高いことを意味している。

分析方法:記述統計を実施したのち、「巻き込まれ」を説明変数、「バーンアウト」「離職意向」のそれぞれを目的変数とする重回帰分析を行った。なお、看護師の年齢、雇用形態、経

験年数、担当ケース数は統制変数として分析に投入した。

倫理的配慮：対象者には書面にて本研究の目的と内容について説明し協力を求める。調査表の表紙には、研究の主旨、研究協力中断の保証、匿名性の確保、守秘義務、得られたデータを研究以外の目的に使用しないこと、研究結果の公表について明記した。また、研究者の連絡先を調査表の表紙に記し、調査に関する疑問について随時対応することを保証した。記入済み調査票は、プライバシー保護のため、個別封筒に厳封されたのち、郵送により回収した。また、記入済みの調査票はID番号で管理し、調査票から得られた情報は全て統計的に処理し、個人の特定を防いだ。本調査は新見公立大学倫理委員会の承認を得て実施した。

4．研究成果

(1)本調査の結果を以下に示す。

回答者 469 名(回収率 31.2%)のうち、各項目に欠損値のない 453 名を分析対象とした。分析対象者の内訳は、女性 96.3%、男性 3.7%であった。対象者の平均年齢は 46.5 歳($SD \pm 8.6$)、平均訪問看護経験年数は 7.9 年($SD \pm 6.4$)であった。

訪問看護師の巻き込まれについて

Over-Involvement 尺度得点(最大 60 点)の平均値 \pm 標準偏差は 34.3 ± 9.2 点であった。対象者のうち、29.8%が対象者の状況に過度に巻き込まれた状態(Over-Involvement 尺度得点 40 点以上)であった。

巻き込まれとバーンアウト、離職意向の関連

重回帰分析の結果、訪問看護師の年齢、雇用形態、訪問看護経験年数、担当ケース数の影響を統計的に調整した後も、巻き込まれはバーンアウト($std. = .25$)や離職意向($std. = .21$)と有意な関連を示しており、巻き込まれ傾向が強いほど、バーンアウトや離職意向が高い傾向にあった。

今回の結果から、約 3 割の訪問看護師が利用者の状況に情緒的に巻き込まれていることが明らかとなった。「巻き込まれ」は、「バーンアウト」や「離職意向」といったネガティブな影響をもたらすことが明らかとなった。在宅医療において重要な役割を担う訪問看護師の確保のために、その予防・改善に向けて早急な介入が求められる。

(2)今後の展望

本研究では訪問看護師における巻き込まれの現状、バーンアウト、離職意向との関連を明らかにできた。訪問看護師における巻き込まれ研究はあまりみられず、今後の研究の蓄積が望まれるところである。最後に、在宅医療が推進される現在、訪問看護師の確保重要な課題である。訪問看護師「巻き込まれ」概念を理解することで日々の業務負担の軽減につながる可能性がある。そのため、今後巻き込まれに対する研修プログラムの開発が求められる。

<引用文献>

P・Benner 著 井部俊子・井村真澄・上泉和子訳. ベナー看護論達人ナースの卓越性とパワー 第 1 版,医学書院,1991.

J.M.Morse,Negotiating commitment and involvement in the nurse-patient relationship,Jarnal of Advanced Nursing,16,455-468,1991.

牧野耕次・比嘉勇人・池崎潤子他:看護師版対患者 Over-Involvement 尺度の開発と信頼性・

妥当性の検討，人間看護学研究，7，1 - 8，2009．

田尾 雅夫・久保 真人：バーンアウトの理論 と実際 心理学的アプローチ 誠信書房，1996．

Tei-Tominaga M, Miki A, Fujimura K. A cross sectional study of factors associated with intentions to leave among newly graduated nurses in eight advanced treatment hospitals: job stressors, job readiness, and subjective health status. 日本公衆衛生雑誌, 56, 301-311, 2009．

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

吉田 美穂：訪問看護師における巻き込まれ現象の解明，地域ケアリング，18(9)，88-89，2016．(査読あり)

〔学会発表〕(計 2 件)

吉田 美穂，古城 幸子：訪問看護師における巻き込まれに関する研究，第 18 回日本在宅医学学会大会 第 21 回日本在宅ケア学会学術集会合同大会(東京都)，2016.7.17.

吉田 美穂，矢嶋 裕樹：訪問看護師における巻き込まれとバーンアウト，離職意向との関連，第 38 回日本看護科学学会学術集会(愛媛県)，2018．12．15．

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。